次の文章を読んで、後の問題に答えなさい。

私たちの毎日の生活で、ものを数える機会は本当にたくさんあります。家で飼っているペットの数、仲良しの友だちの数、今日食べたクッキーの数、ペンケースに入っているエンピツの数、夏休みに読んだ本の数、お気に入りのTシャツの数――これらを言う時には、全部数え方が必要になってきます。

数え方を全然使わずに一日でも過ごすことは果たしてできるでしょうか？　ものを数えない日ということ自体、想像するのが難しいかもしれません。あなたが学校で勉強している人だったら、「今日の一時間目の社会では、難しいプリントが二枚配られて、先生に三回も当てられたなぁ。」なんてことをちょっと思い出しただけでも「一時間目」「二枚」「三回」といった数え方が出てくることでしょう。

もちろん家でお手伝いをする時も「豆腐一丁とゆでうどん三玉を買う」、「ホウレンソウ二把で三〇〇円」、「ニンニク二かけとタマネギ一個を十分間いためる」、「米二合に水三カップで炊く」など、ものを数えたり測ったりする機会にあふれています。たとえ風邪を引いて家で寝ている日であったとしても、「熱が三十八度も出た」「食欲がなくておかゆ一杯しか食べられない」「①風邪薬は一日三回各三錠服用」などと言ったりしますから、やっぱり生活の中に数え方が溶け込んでいるのです。

でも、こんな風に数えるものによって数え方を変えるのって結構面倒臭いですよね。ものの数を言いたいだけなのに、それにくっ付いている数え方まで気にしなくてはいけないなんて、日本語は手間がかかる言語だなぁ、と思ったことありませんか？　リンゴやミカンを数えるように②「一つ」や「一個」で、何でも済ませることができたらどんなに便利だろうと感じたことがある人もきっと多いはずです。

それならば、いっそ日本語の数え方をもっと簡単にしたらどうなるでしょう？　きっと便利になるはずです。例えば、リンゴやミカンを数えるのと同じように「個」でいろいろなものを数えてみることにします。

「うちには一つの犬と二個のネコがいます。」
「昨日三つのお友だちと一緒に遊びました。」
「新しいノートを四個買いました。」

……あれれ。犬やネコを「一つ」「二個」と数えると、なんだかぬいぐるみか置物みたいです。三人のお友だちを「三つ」と数えると、三歳の友だちと遊んでいるようです。ノート「四個」と言うと、ノートが固まってしまって、ページを開けられない感じさえしてきます。数え方が「つ」と「個」だけになると、便利になるどころか、とても不便になってしまいました。これはどうしてなのでしょう？

数え方には数えるものについて、それがどんなものであるのか話し手はそれをどう捉えているのかという情報を補う役割があります。例えば、「一匹」、「二匹」の「匹」なら小さい動物、「一人」、「二人」の「人」なら人間、そして「一冊」、「二冊」の「冊」なら本や雑誌、ノートといったように、数えられるものの情報をプラスしてくれているのです。

ちょうどこれは、ものを数えた時、数字の後ろに小さな箱が置かれるようなものです。これを〈数え方の箱〉と呼ぶことにしましょう。その〈数え方の箱〉には、数えられるものがどんなものなのかという情報を入れることができます。数える対象が生き物なのか、人間なのか、大きいのか小さいのか、紙を束ねてパラパラめくれるものなのかなどなど、いろいろな情報が入っています。あなたがものを数える時、相手の人はいつもその〈数え方の箱〉にどんな情報が入っているのかを手掛かりに

して聞いているのです。

では、〈数え方の箱〉に入れるものを何にしようかいちいち考えるのはめんどうだから、何でも「一つ」や「一個」で数えてしまうとどうなるでしょう？　聞いている人は、箱を開けてみても中に何も情報が入っていなかったり、どの箱の中も同じものが入っていたら、情報が何も得られずきっとがっかりするでしょう。その上、③「三つのお友だち」の「三つ」のように、年齢も数えられる数え方が入っていたら「三歳のお友だちのことかな？」と誤解して、混乱することもあるでしょう。

もうお分かりですね。何でも「一つ」や「一個」で数えること、それは実はとても〝もったいないこと〟なのです。ものを数える時、せっかく数字の後ろに情報を入れられる〈数え方の箱〉が置かれているのに、それを十分に活用しないということは、伝えられるはずだった情報が伝えられないままになってしまうということです。日本語が持つ力を十分に利用しないということ、これは本当に〝もったいないこと〟なのです。

（飯田朝子『数え方でみがく日本語』による）

〔問題一〕　波線部①では「風邪薬」を「錠」と数えていますが、それ以外に考えられる風邪薬の数え方を二つ書きなさい。ただし、本文中で用いられているものの数え方は除き、数字部分を書く必要もありません。

〔問題二〕　波線部②には「『一つ』や『一個』で、何でも済ませることができたらどんなに便利だろう」とありますが、何でも「一つ」や「一個」で数えてしまうとどうなると筆者は考えていますか。三十五字程度で答えなさい。

〔問題三〕　波線部③には「『三つのお友だち』の『三つ』のように、年齢も数えられる数え方」とありますが、年齢や学年、特にその差について、「三つ上の先輩」のように「つ」で数えるのではなく、「三個上の先輩」のように「個」で表現する人が近年増えています。このことについて、本文の筆者は他の文章で、「自然に生まれた表現」であり「もはや間違った日本語であるとは言えない」とも述べています。

このように、年齢や学年の差を「個」で数えることについて、あなたはどのように考えますか。理由をふくめて四〇〇字程度で書きなさい。賛成か反対か、自分がそのような表現を使うか使わないかは、採点に関係ありません。

- 題名・名前は書かずに一行目から書き始めなさい。
- 書き出しや段落を変えた時の空らんや、。「　などもそれぞれ一字に数えます。
- 文章を直すときは、きれいに消してから書き直しなさい。ただし、次の例のように、書き直してもかまいません。

母
~~お母さん~~が、私に、一冊の本をくれました。
新しい